

第2回 福井の道づくり懇話会 議事録（要旨）

日時 令和2年10月7日（水） 9:30～11:00

場所 福井県国際交流会館 特別会議室

1 開 会

司 会

ただ今から、第2回福井の道づくり懇話会を開催する。

2 あいさつ

土木部長

8月に開催した第1回懇話会においては、各委員の皆様から幅広いご意見をいただいた。道路整備などの重要性に加えて、歩行者や自転車の移動時に楽しめる空間づくりなど、今まで車中心で考えていたことを人中心の観点も必要だとの意見等をうかがった。

第2回懇話会においては、第1回の皆様のご意見、また、県民アンケートの結果を踏まえて整理したこれからの道づくりの方向性や進め方についてご意見をいただき、将来ビジョン改定の検討を加速させていきたい。

3 議事(1)

事務局

(1)第1回懇話会の意見と県民アンケートの結果について

【資料1-1】第1回懇話会における意見の概要

第1回懇話会における意見の概要として、いただいたご意見を5つの項目にまとめた。

○「道路ネットワークの重要性」に関する主な意見

- ・中部縦貫自動車道や国道8号など骨格となる道路整備
- ・防災や観光の観点から、縦方向の道路だけでなく横方向の道路の整備についても必要

○「道路保全の重要性」に関する主な意見

- ・災害時における救援・支援ルートが確保できるよう災害に強い道路が必要
- ・道路施設の老朽化対策として、事後対策ではなく予防保全型で進めるべき

・今ある道路を維持していくことも重要であることを県民にPRすべき

○「多様性のある道路空間」に関する主な意見

- ・歩行者も車も安全な道づくり
- ・道路は、多目的に活用できるという機能が求められており、歩いたり、自転車での移動が快適で楽しめる道路空間づくり
- ・美しさや心地（こころ）よさのある遠回りしてでも通りたくなる道路づくり
- ・デザイン性を持った道路

- ・多目的に利活用できるよう柔軟性のある道路整備
- ・沿道とのつながり、まちづくりと一体となって賑わいを創出する道路
- 「県民とのコミュニケーション」に関する主な意見
 - ・住民と連携した道づくり
 - ・道路の重要性を県民にわかりやすく説明・PRすること
- 全体的な話として「ビジョンの視点」に関する主な意見
 - ・敦賀港や中部縦貫自動車道などの整備で広域的な経済圏ができてくるなど、福井の位置付けが大きく変わる可能性があり、長期的な視点を持たせること
 - ・多様化する道路の使い方を考えること
 - ・情報化を道づくりに活かすこと、SDGsに結び付けて考えること

【資料1-2】「福井県の道路についてのアンケート」調査 結果概要

1. アンケート実施概要(P.1)

○調査時期

道路に関する県民の意識を把握するため、7月1日～31日の期間で実施した。

○調査

各市町役場（支所）、土木事務所、道の駅でアンケート用紙を配布し、その場で回収または郵送による回収のほか、県の道路建設課のホームページ上でも回答できる方法とした。

○回収結果

- ・アンケート用紙での回答が919人
- ・インターネットでの回答が480人
- ・合計1,399人の方から回答があった。

○アンケートの内容

内閣府が定期的実施している道路に関する世論調査（H28年）の内容に準拠して作成。現行のビジョン策定時（H14年）にも、同様な内容で実施しており、1,363人の方から回答をいただいている。

2. アンケート回答者の属性

○回答者の市町別構成比

前回の調査同様、概ね各市町の人口の割合に合っている。

○回答者の年齢構成比(P.2)

前回に比べて65歳以上の割合が少ない、年代の偏りがなく、バランス良く回答をいただいている。

これ以降、アンケート結果のポイントについて説明する。

3. 県民の道路に対する意識 (P. 2～P. 3)

○優先すべき社会基盤

前回同様、道路が約8割と最も多い回答。近年、頻発化している台風や豪雨被害の影響からか、河川については、前回の結果と比べると、18%から55%と大幅に伸びている。

○今後、力を入れてほしい道路整備

災害に備えた対策が6割と最も多く、道路拡幅、地域間の幹線道路、バイパス整備などハード対策が上位にきている。歩道設置、段差解消については、H14年から伸びており、歩行空間整備の意識が高まっている。補修・修繕などの維持管理の充実についての回答も多くある。

4. 主な傾向 (P. 3～P. 7)

(1) 道路整備について

- ・「渋滞対策」として、車線数増加や右折レーン設置、バイパス整備、信号サイクルの調整の回答が多い。
- ・「活力ある地域づくりのための道路施策」として、雪に強い道路が最も多く、幹線道路の整備、病院や商業施設、高速インター、港湾、観光地へのアクセス道路、観光資源となる美しい景観の道路など幅広く選択されている。
- ・「観光振興」について、観光地へのアクセス道路や案内標識の整備が多く、道の駅の整備や公共交通の利便性向上なども一定数選択されている。

(2) 歩行者空間について

- ・「道路空間の有効かつ快適な活用施策」として、降雪時に支障のない道路空間が最も多く、歩行者優先の道路空間の確保が、平成14年時(19%)から大幅に伸びている(37%)。また、無電柱化や植樹帯設置による景観向上の回答も多くあった。
- ・「歩行者の立場から望む道路施策」として、歩道設置・段差解消の回答が77%と最も多く、雪でも安全な歩道整備や自転車と歩行者の分離の回答も半数近くあった。

(3) 道路構造物の維持管理について、

- ・「道路構造物の維持修繕・更新の考え方」として、更新よりも予防的な補修など、既存の施設を有効活用することが望まれている。

(4) 雪に強い道路について、

- ・「安全性向上のための道路施策」、「道路空間の有効かつ快適な活用施策」として、雪でも安全で支障のない道路の回答が最も多かった。「活力ある地域づくりの道路施策」でも、雪に強い道路が最も多かった。

座長

今の事務局からの説明について、何か質問はあるか。
質問がないようなので、次の議事(2)に入る。

議事(2)

事務局

(2)道路の将来ビジョンの論点について

【資料2】道路の将来ビジョンの論点について

I 概要(P.1)

○福井の道路をとりまく状況（課題）

1.「高速交通・物流ネットワークの整備促進、交流の拡大・産業の活性化」

中部縦貫自動車道の未整備区間などミッシングリンクの解消や、国道8号など骨格となる道路や国道417号の冠山峠道路といった産業・観光に資する道路の整備促進などの課題がある。

2.「頻発する激甚災害への備え、安心して暮らせる基盤の強化」

災害時における救援・支援ルートの確保、老朽化が進む道路施設の対策、子どもや高齢者などの歩行者の交通安全の確保などといった課題がある。

3.「道路に求められるニーズの多様化」

道路を多目的に利用するニーズが増えており、歩行者・自転車の快適な通行空間の確保、景観づくりなど、車中心ではなく、人中心の道路空間の創出などの課題がある。

4.「県民とのコミュニケーション」

道路に関する情報を積極的に収集・発信をして情報を共有し、意思疎通をはかりながら、県民との協働による道路整備を進めていくという課題がある。

○道路の将来ビジョンの論点（案）

・ビジョンの枠組み

現行のビジョン同様、「道づくりの基本方向」と「道づくりの基本的な進め方」で構成している。

・道づくりの基本方向

<現行ビジョン：3本柱>

- ①地域の再構築として“きずく”
- ②安全で安心な地域づくりとして“まもる”
- ③空間的価値の再生として“そだてる”

↓

改定にあたり、道路整備の基本方針が、より明確化するよう、テーマを区分し、5つの項目立てをした。

<新ビジョン：5本柱>

- ①交流の拡大 ～広くつながるみちづくり～
- ②産業・観光の活性化 ～ふくいをみがくみちづくり～
- ③幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～
- ④県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかなみちづくり～

⑤多様性の創造 ～楽しく心地よいみちづくり～

特に、「県土強靱化と持続性」は、近年の激甚災害の頻発化もあり、第1回懇話会のご意見やアンケートの回答でも災害に強い道路の要望も多く、1つの項目とした。

また、「多様性の創造」は、第1回懇話会のご意見において、多目的に利用できる道路、歩いたり、自転車での移動が楽しめる道路整備など、柔軟な道路整備を求める意見が多く、国の道路ビジョン「道路の景色が変わる」においても、道路を人々が滞在し交流できる空間として人中心の道路空間の創出が求められているため、1つの項目とした。

以降、各項目について説明する。

1. 「広域交流の拡大」～広くつながるみちづくり～

「福井県長期ビジョン」に示されている『県境フロンティアプロジェクト』に関わりがあり、現行ビジョンにおいて“きずく”の項目にある大都市圏との交流促進や県境を越えた連携の強化を引き続き進めるため、

(1) 県土の骨格となる幹線道路の整備

(2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの整備

とした。

2. 「産業・観光の活性化」～ふくいをみがくみちづくり～

「福井県長期ビジョン」において、『100年に一度のまちづくり』の「交通新時代の道路ネットワークの構築」として掲げられている項目に関わりがあり、

(1) 産業経済を支援する道路整備

(2) 周遊・滞在型観光を促進する道路整備

とした。

3. 「幸福度日本一の生活基盤」～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～

一般財団法人「日本総合研究所」が分析している幸福度ランキングにおいて、福井県は日本一と評価されており、継続して暮らしやすい福井県となるよう、

(1) 生活を支える道路整備

(2) 誰もが安心して暮らせる道路整備

(3) 公共交通機関との連携

とした。

現行のビジョンにおいても、“まもる”の項目における誰もが使いやすいデザインの採用や“そだてる”の項目における公共交通機関との連携・支援として記載がある。

4. 「県土強靱化と持続性」～強くてしなやかなみちづくり～

近年激甚化する豪雨・豪雪や高経年化が進む橋梁など道路施設の状

況を踏まえ、災害時においても道路ネットワークを保全・維持できるよう、

(1)大雨・大雪など災害に備える道路整備

(2)道路施設の予防保全・長寿命化

とした。

現行ビジョンにおいても“まもる”の項目にあった複数ルート確保や耐雪力の向上と関連があり、時代にあわせてレベルアップを図る。

5. 「多様性の創造」～楽しく心地よいみちづくり～

第1回懇話会において最も多くご意見をいただいたテーマであり、

(1)楽しめる道路空間の創出

(2)景観・環境への配慮

とした。

現行のビジョンにおいても、“そだてる”の項目で道路空間の利活用やまちづくりとの連携・支援、環境との調和として記載があり、充実させていく。

・道づくりの基本的な進め方

<現行ビジョン：3項目>

①効率的、経済的な事業展開を図る

②県民にわかりやすい指標による評価を行う

③県民の意見を聞く取組みを進める

↓

改定にあたり、

<新ビジョン：3項目>

①効率的、経済的な事業展開

②県民とのコミュニケーション

③情報化技術の活用

①については、指標による評価を効率的な事業展開を図るに取り込み1つにまとめた。

②については、現行ビジョン③の県民の意見を聞く取組みについて、双方向でコミュニケーションを図ることとし表現を変えた。

③については、道路整備を進めるにあたり、近年技術の進歩が著しい情報化技術を活用することとし、新たな項目として立て、前回同様3つの項目とした。

II 道づくりの基本方向の論点(P.2～P.3)

項目ごとに具体的な例を挙げて説明する。

点線枠内は、第1回懇話会の各委員の意見の要旨を記載している。

1. 広域交流の拡大 ～広くつながるみちづくり～
 - (1) 県土の骨格となる幹線道路の整備
 - ・ ミッシングリンクとなっている中部縦貫自動車道の整備
 - ・ 暫定2車線となっている舞鶴若狭自動車道など高規格幹線道路の4車線化
 - ・ 広域ネットワークを形成する地域高規格道路の整備
 - (2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの整備
 - ・ 国道8号など県境部の広域幹線道路の整備
 - ・ 国道417号など広域幹線道路をつなぐ広域道路の整備
2. 産業・観光の活性化 ～ふくいをみがくみちづくり～
 - (1) 産業経済を支援する道路整備
 - ・ 福井港丸岡インター連絡道路など、企業誘致や産業の活性化に資する道路の整備
 - ・ 県道福井森田丸岡線など渋滞箇所の解消に資する道路の整備
 - (2) 周遊・滞在型観光を促進する道路整備
 - ・ 国道417号など広域周遊観光ルートを形成する道路の整備
 - ・ 道の駅、SA等の施設の充実やサービスの向上およびアクセス道路の整備
3. 幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～
 - (1) 生活を支える道路整備
 - ・ 主要地方道坂本高浜線、国道158号バイパスなど県内の地域間を連絡する道路の整備
 - (2) 誰もが安心して暮らせる道路整備
 - ・ 身近な生活道路の安全確保
 - ・ 子どもや高齢者が安全に通行できるよう交通安全対策の推進
 - ・ 無電柱化による快適な通行空間の確保
4. 県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかなみちづくり～
 - (1) 大雨・大雪など災害に備える道路整備
 - ・ 緊急輸送道路など重要な道路上にある、防災が必要な箇所を重点的に整備
 - ・ 災害時の安定的な人流・物流の確保に向けたダブルネットワーク化の推進
 - ・ ICTを活用しながら幅広く道路情報を収集し、発信・共有を図り、安全な通行の確保
 - (2) 道路施設の予防保全・長寿命化
 - ・ 定期点検を実施し、予防保全による老朽化対策の推進
5. 多様性の創造
 - (1) 楽しめる道路空間の創出
 - ・ 歩行者の利便増進につながる道路空間の整備
 - ・ 郊外などで健康増進につながるサイクリングコースの整備

- ・ 日常利用のため、市街地内の自転車通行空間のネットワーク化
- (2) 景観・環境への配慮
 - ・ 周辺の風景や街並みに合わせてデザイン性のある景観に配慮した道路整備の推進
 - ・ 低炭素化を進めるため、車以外の移動モビリティへの転換

Ⅲ 道づくりの基本的な進め方の論点(P.4)

項目ごとに具体的な例を挙げて説明する。

1. 効率的、経済的な事業展開

(1) 選択と集中による事業展開

- ・ 重要度や必要性を踏まえ、適切に事業評価を行い、効果的・効率的に事業を進める

現行ビジョンの指標による評価を行うとの項目を取り込み、1つにまとめている。

(2) 建設から維持管理を含めたライフサイクルコストの軽減

- ・ 維持管理を含め、長期的な視点でのコスト軽減を図り、事業を進める

(3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

- ・ 定期点検を実施し、予防保全対策による道路施設の長寿命化を図る
- ・ 民間事業者との連携（PPP）や県民との情報共有を図りながら、選択と集中による効果的・効率的な維持管理を進める

2. 県民とのコミュニケーション

現行のビジョンでは県民の意見を聞く取組みを進めるとされていた項目を、聞く一方向だけではなく、こちらからも情報を発信し、共有を図り、双方向のやり取りをしながら、進めていく意味の「県民とのコミュニケーション」とした。

(1) 道路に関する情報の収集・発信・共有

- ・ パンフレット、ホームページ等を活用しながら道路に関する広報・説明活動を積極的に行う
- ・ 道路に関する情報を県民から収集し、迅速に対応するとともに、様々な道路情報の共有を図り、通行の安全を確保する

(2) 県民との協働

- ・ 施策の立案、事業の計画・実施の各段階で地域住民および民間事業者等と連携しながら道路整備、道路空間の利活用を進める

3. 情報化技術の活用

近年情報化技術が急速に進展しており、第1回懇話会でも、これからは情報化技術を活用しながら進めていく必要があるとのご意見をいただいております。「情報化技術の活用」として項目を立てた。

(1)情報共有

- ・ICTを活用し、関係機関と情報の共有を図り、情報を道路利用者に提供することで、通行の安全性や利便性の向上を図る

(2)デジタル技術の有効活用

- ・AI、ICT、5G・6G、ビッグデータ等の最新技術を活用し、渋滞対策、交通安全対策、自動運転車の実用化、維持管理の効率化等を図る

座長 意見交換として、項目ごとに各委員の皆様から、ご意見を伺いたい。項目に追加した方がよいと思うものや、記述のフレーズについて、こういう表現の方が分かりやすいと思うものなど、ご自由にご発言いただきたい。

まず、「道づくりの基本方向」について

1. 広域交流の拡大
2. 産業・観光の活性化
3. 幸福度日本一の生活基盤
4. 県土強靱化と持続性
5. 多様性の創造

まで、どの視点からでもご自由にご意見を伺いたい。

委員 「Ⅱ 道づくりの基本方向の論点」の中で一つ確認をしたい。

副題で付いている、ひらがなの「みちづくり」と漢字の「道づくり」の使い分けの定義があれば教えていただきたい。

事務局 特に意味を持たせて、使い分けはしていない。キャッチフレーズとして皆(若い方から高齢者の方まで)が親しめるように「ひらがな」で表現している。

委員 ①概要版のようなパンフレットができた場合、表記の混在を上手く説明できるような、ダイアグラムの的なものがあるとわかりやすい。
②第1回の懇話会で出てきた意見として多い、2-(2)、3-(3)、5の項目について、ボトムアップ的な仕掛けが求められているという印象を受けた。
③地域住民が「みちづくり」を進める主人公であるような言葉の表現が必要だと思った。「道路整備」の言い方になると行政側が独断で進めていくイメージがあるため、少しそのような表現の工夫を取り入れると分かりやすくなる印象がある。

座長 地域住民をどれだけ取り込んだ道路のあり方、作り方ができるか。道路だけでなく、いろんな分野で求められている。ボトムアップという表

現、地域からの意見を吸い取りながら、造ることを見える化していつてもらいたい。

委員

「Ⅱ 道づくりの基本方向の論点」について

1. 広域交流の拡大 (1) 県土の骨格となる幹線道路の整備

①2 つ目までの中部縦貫・舞若道は具体的な名称が出ているが、3 番目の地域高規格道路(福井外環状道路)はぼやけた感じとなっている。かなり前から言われているが、国土強靱化の中のダブルネットワークなどで出ているように、8 号など中心(骨格となる道路)が縦軸に集まっている。その軸に位置付けられているということで、あえて(具体名を)出さないというのであればいいが、明確に意志として示すならば具体的な名称か、分かるような示し方にしてはどうかと思う。

4. 県土の強靱化と持続性

②(1)-3 番目の ICT について、(2) 道路施設の予防保全・長寿命化の中でも ICT が使われ、両方の項目に絡むため、独立した項目として「(3) ICT を活用した～」とし、災害に備える、予防、メンテナンスなど、具体的に書き出すことで強調したメッセージになると思う。

5. 多様性の創造

③(1) 楽しめる道路空間の創出

歩いて健康増進や自転車・・・となっている箇所を、「楽しめる」所を具体的に示した方が良い、今だと少し弱い印象を受ける。コロナ禍の中で都市部のような歩道空間を使って色々なことをやっているのが、当初は暫定的だったのが、常態化(常設化)してきてやりやすくなる動きになってきている。道の空間自体をダイレクトに活用することを、もっと明確に取り上げて展開する、道自体を楽しむことを入れた方が良く感じている。

④(2) 景観・環境への配慮

この文は都市部の街なかをイメージしている感じがするが、前回の委員からの意見(シーニックバイウェイ)のような観点を明確に示した方がいい。ランドスケープ的なものも含めてゆったりと楽しめる、道路の線・面的なことをやっていくということを明確に示した方がいい。観光にもつながる。街なか中心のイメージがあるので、県土全体のバランスを考えて、入れた方がいいと思う。

④「移動モビリティへ転換」との言葉が自転車だと思っはいるが、抽象的で、具体的にわからない。

道路の話をするとう道路だけ、鉄道の話だと鉄道だけになってしまう、同じ交通手段なのに壁を感じてしまうので、鉄道へ道路側から寄っていくことを示してはどうか。新幹線駅と道の駅をどのように繋ぐかなど。

座 長 もう少しリアリティを出し、県民が理解しやすいような書き方に落とし込む必要があると感じた。難しい一面もあると思うが、一般的に言うか、個別の特定した言い方をするか、極力出せる所は出していくなど、事務局と考えながらやっていければと思う。

車以外の移動モビリティについては、今の環境重視としてCO2削減を単純に示しているだけだと思う。

- 委 員
- ①多方面に渡って十分検討していただいている。
 - ②進めていく中で、表現が少し弱い。「整備する」「推進する」を、「充実する」「強化する」とした表現があっても良いのではないか。
 - ③どのようなジャンルでくくるかというところはあるが、道路の品質・品格を高める表現とする。老朽化対策や防災対策、道の駅のデジタル化やサービスの向上が福井県の道路の品格・品質を上げていく。小学校の交差点など子供たちの安全など、いろんなことが行政的なことである。行政的と言いながら、県民とコミュニケーションを取ると言うのであれば、表現に気をつけて、品質を高める、品質を継続するためには、県民に参加してもらう必要がありますよとか、県民に愛着を持ってもらって、きれいにしようとか、花を植えようとか、導いていけるようなビジョンに仕上げていくと、冊子そのものも品格が上がり、これからの取組みも、提案して、連携して、よりよいものに仕上げていくんだ、という気持ちになり、優しく良いものになると思う。
 - ④上手く作ってある内容なので、早く実行して欲しいと思う。

座 長 意見を代弁していただき、ありがとうございます。

- 委 員
- 2. 産業・観光の活性化
 - ①人口減少になって、店がより経済性を求めて人出の多い街中に出てくるなど、移動店舗や小型店舗が増えてくるのではないか。大きい物流だけでなく、小さい産業の道路活用や空間等の意味合いを含められると良いと思う。
 - ②自動運転時代の道路は、まだ想像できないが、都会のように賑わいがあるものを地方として作っていくには、みちづくりとして、B/Cも考え、コンパクトに都心部への集中方針があっても良い。
 - 5. 多様性の創造
 - ③歩道などにオープンカフェなど賑わいを作っていくって、道路は走ったりするだけでなく、空間としての需要が高まり、また、産業尾的にもそうあってほしい。道路を拡幅しながら空間利用する発想も組み込んでほしい。
 - ④シェアリング社会として自転車利用(ふくチャリ)が増えていくのではないか。観光客も市街に来れば、自転車で活動もする。その為にも

今後の道路整備計画を立てていってほしい。

- ⑤世界の名だたる観光都市には、素晴らしい街の特徴だった景観がある。福井駅からのメインストリート(今の中心開発地)を昔のシンボルロード空間としてみた時に、ランドスケープのような、もっと緑があった方が良く感じる。福井市だけでなく、各市町で特徴あるシンボルロードができるだけでも観光がかわっていくので、そういうことも取り入れると良いと思う。

2. (2) 県民との協働(P. 4)

- ⑥地域住民と住民参加の道づくりと言ってもイメージが湧かないため、良い事例を紹介してほしい。道路を造ると言っても、住民説明会をイメージしてしまう。
- ⑦インターネット、HP、パンフレットで情報を出すだけでなく、中高校生が読めるような、子供たちに道路を身近に感じてもらえるようなビジョンを作ると、県民の理解を得られやすい。
- ⑧SDGsのアイコンを使いながら、わかりやすい持続可能な開発目標と合わせていくと良いと思う。

座長 物流や人流ではなく、道路を使う庶民への優しさ、暮らしに密着した産業への配慮があっても良いのではないかと感じた。

道路の整備について、空間軸をどう使うか。福井らしさを思わせるような道路のあり方、整備をしていけたらと思う。

委員 ①2. 産業・観光の活性化 (2) 周遊・滞在型観光を促進する道路整備
今のビジョンでは、観光資源の有効活用への支援という受動的な表現が、今回のビジョンでは促進する道路整備ということで能動的に書かれていて、非常にありがたい。ここで重要なのは、観光地とは、どういう所なのかという点である。観光地へのアクセス路をどういう所を整備していくのか、考えてほしい。

②5. 多様性の創造

楽しめる道路として、サイクリングコースの整備は、専用自転車道整備をイメージしているのか？

事務局 コース整備として、今ある既存の道路をどう繋いで、走りやすくする。新しく整備するよりも、今ある道路を使って、観光地でサイン(標示)を示して使いやすくするイメージである。

委員 しまなみ海道や琵琶湖周辺などでサイクリングを楽しんでいる。
福井県では三方五湖、美浜町では道路路側帯に線を引いて自転車が通行しやすいようにしてある。実際に自転車を楽しんでいる人に話を聞くと、「非常に走りやすい」との言葉を聞く。このようなことも考えてもら

えればと思う。

座 長 観光と道の関係性にリアリティがないとダメだろうなと感じた。福井県の観光の定義を勉強し、的を外さないような表現(書き方)を考えたいと思う。

委 員 III道づくりの基本的な進め方の論点(P.4)

2. 県民とのコミュニケーション

現在のものより、双方向を意識したのは非常に素晴らしい。

(1)で情報の収集・発信・共有、(2)で協働と掲げられている。コミュニケーションだと、コミュニケーションだけで終わってしまいそうな印象を受けるので、見出しのところで、県民とのコミュニケーション「と協働」まで、基本的な進め方、論点として挙げても良いと思った。県民を巻き込んで一緒にやっていく姿勢を示すには、そこまで書いても良いと思う。書くとは難しいのかもしれないが、「人」を入れ込んだ方が良いと思う。

パンフレットやHPは、人があまり介在していないので、少し人を介在させる視点を検討しても良いと思う。

座 長 コミュニケーションは、相互力や協働という概念なので、そこをできるだけ盛り込んでいけたらと思う。

委 員 ①5. 多様性の創造

道路法の改定に伴って道路が多様に使えるようになったことで、商業的な利用法だけでなく、イベント活用や憩いの場としての空間創出などの文言も入れたら良いと思う。

「歩行者の利便増進」について、利便増進だけでなく、「心地よさ」という言葉も入れたら良いと思った。

(1)と(2)の両方に関係する「緑道」という文言があっても良いと思う。歩行者や自転車だけでなく、「緑道」と一体となった歩道や自転車通行空間の整備。「緑道」というと、車が通る道路沿いの街路樹を思い浮かべがちだが、歩行者や自転車中心の都市づくりが進められているコペンハーゲンでは、車が通らない、自転車と歩行者だけの緑道空間が整備されていて、非常に心地良い空間になっている。また街路樹だけでなく、道路沿いに花が植えられるなど、多様な緑道空間があっても良いと思う。

サイクリングロードは「郊外」で「非日常」という表現になっているが、例えば足羽川は市街地にあり、足羽川川沿いは日常的にサイクリングや散歩に利用できる良い緑道があるので、市街地にある道路も日常的にサイクリングや散歩にも利用できるような緑道に繋げていくと、より良い都市環境になると思う。

②P.4 道づくりの基本的な進め方

「評価」のキーワードがなくなっている。例えば、歩道整備をしたらどれぐらいの利用者が増えた、というような、取り組んだ内容に対する成果を測る内容を入れたら良いと思った。

座長 「緑道」「緑の道」という言葉を初めて聞いた。
景観も含めて道づくりを考えなければいけないと感じた。
成果は非常に大事なので、成果の結果を出すことも考える、ということだと感じた。

委員 道路利用者としての立場での具体的な要望

①2.(1)渋滞対策

アンケートにあるように、右折レーンの設置やバイパスを造る、信号調節など、渋滞は大変な経済的損失なので、幹線と生活道路を分離するようなバイパスを造ってもらいたい。また、東西の道の拡充が必要だと思う。

②3.(2)誰もが安心して暮らせる道路整備

一般道路を走っていると非常に危険なので、歩行者と自転車の専用道路を造ってもらえるとありがたい。

サイクリングロードがあると、一般道路を走る比率が下がり、事故防止につながる。

③4. 県土強靱化

国道8号でも片側2車線が確保できていない区間がある。石川県との県境や、敦賀から武生までの海岸線は坂も多くカーブもあり危険となっており、事故や災害が発生し通行止めになると交通が遮断されるので、トンネルなどの迂回できる道ができれば良いと思っている。

座長 大変貴重なご意見ありがとうございます。

座長 各委員の貴重なご意見をキーワードでまとめさせていただく。

①地域の声をどう組み込むか、生かしたものにするか

②見せ方をどうするか

③観光・産業のあり方が変わってくるため、身近な産業、観光の中での道づくりを考えなければいけない。(例えば、駐車場や停車場を造る)

④「緑道」道がもたらす景観を福井らしさも含めてどう見せるか

⑤道路づくりがどれだけの成果をあげたか

↓

全て丸めて、福井県道路の総合力をいかにうまく出した形で仕上げているかが、道づくりの基本方向のキーワードとなる。

座 長 III 「道づくりの基本的な進め方」について
各委員の皆様から、ご意見をお願いしたい。

委 員 これからどうしていこうというアイデアがもう少し見える形になると良いと思う。例えば、既存道路の使い方や維持管理方法が固い感じで、地域の人達に関わることができるような印象が含まれていない。

1. 効率的・経済的な事業展開

地域の方々が関われるように、具体的な事例、進め方を項目に入れると、例えば、BID 制度[※]でエリアマネジメントなど、地域の方々に近いものに感じる印象をうける。

〔※BID (Business Improvement District) とは、地域内の地権者(事業者)から徴収される共同負担金により、その地域内の維持管理、開発、プロモーションを行うもの。(治安の改善、マーケティング、施設改善など行政が提供しているサービスに対する付加的なもの)〕

2. 県民とのコミュニケーション

人がちゃんと” 介在” することが大事。道は一番身近な公共空間であり、自分たちにとっての身近なものであることを意識させる。情報発信のイメージよりも、賑わいを一緒に作っていくような印象を植え付けるコミュニケーションの方法があれば良いと思う。

委 員 発信や共有だけでなく、一緒に作っていく仕組み・仕掛けがほしいということに集約される。例えば、作らなくても、今あるものを使っていく考え方もある。事例として「長崎さるく博' 06」の通り名に名前をつける方法。これは、お金がいらぬ、歴史が掘り起こされる、新しい名物ができたなど。

日本には通り名があまりなく、福井では、大きい道路、ex. さくら通りやお泉水通りがあるが、小さい道路にはない。地域でいろんな活動や観光を促すようにする。道に簡単に関われるプロジェクトなどを立ち上げて、おもしろく、楽しくやっていく。その機運を作っていくことだと思う。それがうまく心の中に入ると、コミュニケーションで話し合おうだけでなく、実際に作っていきましょうとなり、商売になったり、地域で集まるイベントの場になるかもしれない、という具体的なイメージになる。

どう行こうかは考えないといけないが、前のビジョンにはなかった論点なので、今回のキーになると感じる。

座 長 県民と話し合い、進め方として” 遊び心” をいれていくと良いと感じた。

座 長

最後に、私の意見も述べさせていただきます。

基本的な進め方の論点1～3に対して、良い切り口だと感じている。ただ、「時流」との整合性をとっているか。

①デジタル社会への対応

1970年以降にデジタル社会が到来して50年がたち、技術革命(Society5.0、デジタル社会)を意識した活用をしていく。情報化技術の活用をリアリティに落とし込みができれば、もっと良くなる感じがする。スマホ1本で高齢化社会となっても、どこでも出歩ける社会となり、「重要なツールは道路である」ということを意識する。

②命を守る対応

コロナ禍における地域経済影響の調査を7月に実施(約1,100社アンケート回答)。その中で、コロナ禍において伸びる産業として

1) ロボットやAIのデジタル産業

2) 命を守る ex. 福井の企業で繊維会社がマスクや防護服の作成
眼鏡会社がフェースシールド作成 など

「命を守る安心安全な道路」が重要なキーワード

③経済的課題と社会的課題への対応

今の日本社会の考え方がコロナによって大きく変わってきた。

今までの施策は、経済的課題への対応だけで成長してきた。道路もその視点で進んできたが、コロナの中でもう一つ重要な視点が出てきた。産業道路や小さな産業に対する支援など、社会的課題を含めた対応が必要となってきた。経済的課題と社会的課題がうまく両立する道路整備のあり方が大事だと思った。

上記①～③が、道路づくり・道路ビジョンに大事な視点だと感じる。本日の意見を事務局と相談して整理したいと思う。

4 閉 会
司 会

本日は貴重なご意見ありがとうございました。

次回は11月中旬の開催を予定しており、道路の将来ビジョン骨子(案)についてご意見を賜りたい。日程がきまり次第、皆様にご連絡させていただきます。

これをもって、懇話会を閉会する。